

## 臨床研究“免疫グロブリン糖鎖異常の関節リウマチにおける役割”へのご協力をお願い

関節リウマチ（RA）は骨・関節の破壊をきたす病気で、そのため多くの患者さんが日常生活に大きな制約を受けています。しかしながら病気の原因は未だに明らかになっていないために根本的な治療は確立されていません。

RAの病態に関しては一種の免疫異常疾患であると考えられており、RA患者さんの免疫グロブリン G（IgG）に糖鎖異常が起こることが明らかになりました。糖鎖とはタンパク質や脂質に結合して細胞表面に張り出している物質で、他の細胞や毒素・ホルモンなどと結合して情報のやり取りをする「アンテナ」の役割を果たしています。本研究の目的は、最新の糖鎖を解析する技術を用いて血液中の IgG の糖鎖構造を解析することによって病気の原因への関与を明らかにすることです。このことは RA の病因解明と根本的な治療につながると考えられます。

### 研究の実施方法

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計し、通常の診察で行う採血の検体を用いる研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報と切り離して、個人が特定されない形で、厳重に扱います。採取した血液は、大阪南医療センターで大島至郎の責任の下に厳重に管理保管させていただきます。また、学会や論文等で皆様の検査結果に基づいた研究成果を発表することがありますが、もちろん、その際には研究にご協力いただいた方の氏名を特定できるような情報を明らかにするようなことは決してありません。

皆さんの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手又は閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方は、下記の連絡先までご連絡ください。

連絡先：

国立病院機構大阪南医療センター 免疫疾患センター 部長 大島 至郎

☎ 0721-53-5761（代表）